



一宮町長
馬淵 昌也

玉前神社の社殿修理が終了しました。黒漆塗りの本殿の威容が改めて姿を現しました。嬉しい限りです。十余年にわたる長丁場でしたが、神社関係者の皆さまのご努力でついに完成にこぎつけられました。皆さまのご尽力に深甚なる敬意を表したく存じます。

玉前神社の修理完成に伴い、参詣の方も増えてきているそうです。そして、玉前神社周辺の商店街にも動きがあります。

大変残念なことです。ここ数年で、何軒かの大変由緒あるお店が閉店してしまわれました。しかし一方で、改装して新たに開店されたところもあります。全体の動きを見ると、その変化の方向はやはりはつきりしています。従来の一宮の商店街の軸であった、日常的消費の拠点という性格から、玉前神社の参詣客をターゲットにした、観光的消費の場へと移行です。特に、食べ物との関係のお店が増えて、また繁盛しています。

1960年代の写真を見ると、一宮では、夕方には、国道一杯にお客が広がって、道の左右のお店を往来しながら

ら買い物にいそんでいたことがわかります。当時は車も少なく、国道の両側は密接につながっていたわけです。その後、車が増えて、道の左右が分断されました。一方で歩道は狭く、買い物を楽しんで移動するには不十分でした。また、商店街には駐車場がなかった。また、車での買い物も困難でした。そこで、郊外型大型店舗が本格的に登場すると、日常的消費の主力がそちらに移ってしまったというのが、事態のおおまかな経緯です。

多くの商店街は、同様の流れのなかで、衰退の一端をたどっています。隣の茂原では、一宮より旧商店街の苦悩は深いようです。しかし、一宮は違う点があります。なんとと言っても玉前神社の存在です。ここには、年間を通じて参詣客の方が見えます。そこで、こうした「外来」の方をターゲットにした商機が確実に存在しています。玉前神社の社殿修復の完成をお祝いするとともに、そうしたチャンスを確認につかみ、一宮の旧商店街が往年の活気をとりもどすことを、心から願っています。